

読書運動プロジェクト

活動報告書

フェリス女学院大学附属図書館読書運動プロジェクト 2015

本のこと 語り出したら止まらない



洋画から原作へ

2015年度テーマ

読プロ
メンバー
募集中!

あなたは映画をよく観ますか？
映画の醍醐味は自分ではない人の心を味わうこと。それは人生を豊かにすること——
そんな想いから、今年度は本が原作となった作品を、洋面にしぼって取りあげます。まずは映画を観て、それから原作への旅に出かけてみませんか？



本の旅に出かけよう

読書運動プロジェクト【読プロ】とは

本はおもしろい！昔で読めばもっと楽しい！をモットーに、本になじみのない人には読書の楽しさを、本好きな人にはもっと深い読みを味わってもらおうという活動です。

- メンバー
学生・先生・職員・大学全体で取り組んでいます。
- 活動内容
・オススメ本を図書館に展示
・今読んでいる本を持ちよって読書会
・読書チームに入って学内外で発表！
・創作・POP、いろいろなコンクールで作品発表
・図書館に置く本を選んで購入♪
※興味ある活動に気軽に参加してみませんか？



目次

目次	
活動資料	
はじめに-----	1
新入生勧誘イベント-----	2
読書会-----	3
データ	
第1回 フリー「私のおすすめ本」	
第2回 『ライオンと魔女』	
第3回 「もう少し前に出会いたかった本」	
コンテスト・コンクール-----	6
データ	
POP コンテスト	
創作コンクール	
展示-----	8
データ	
展示	
コラボランチ-----	11
選書ツアーとPOPの書き方講座-----	12
文学散歩（神奈川近代文学館・横浜市史資料室）-----	13
大学祭-----	14
展示「洋画から原作へ～本の旅に出かけよう」&クイズ	
ワークショップ「縫わずにできちゃう ブックカバーを作ろう！」	
高校訪問-----	17
読み聞かせレッスン-----	18
サマースクールプログラム朗読発表-----	19
小学校朗読会-----	20
朗読会-----	21
データ	
第1回 大学祭朗読会	
第2回 文学館朗読会	
朗読チームの活動を振り返って-----	23
プロフィール-----	25
学生メンバー	
朗読チーム	
読プロキャラクター“リプロ”	
おわりに-----	32

イベント

イベント名称	開催日	開催場所	内容
展示「洋画から原作へ ～本の旅に出かけよう」	[通年] 4月1日(水)～ 3月31日(木)	緑園図書館2階 展示コーナー	年間テーマ関連の資料123点を3回に分けて展示
読書運動PR	4月2日(木)	緑園校舎 体育館	新入生学内オリエンテーション参加 活動紹介、展示、メンバー募集
第1回読書会	5月18日(月)	緑園図書館4階 読プロミーティング ルーム	[テーマ]フリー(私のおすすめ本) 今読んでいる本、友達に薦めたい本のレビュー
フェリス トライやるweek	6月15日(月)	緑園7号館教室	1年生に向けたイベント ・マイ・しおりを作っちゃおう!
POPコンテスト作品展示	6月16日(火)～ 10月28日(木)	緑園図書館2階 RPコーナー	POPコンテストに応募された19作品および資料の展示
エクスペクト・マカロニ ～ハリーが愛したプレート ～	7月20日(月)～ 24日(金)	緑園校舎 学生食堂	読プロとFLC(フェリス・ランチ・コミッティー)による学生食堂メ ニューの企画 [実施メニュー]「ハリー・ポッターにちなんだメニュー」 ・マカロニ・チーズ ・イギリス風スコッチ・ブロス(大麦と野菜のスープ) ・糖蜜パイ ・麦芽ロール
第2回読書会	7月24日(金)	附属図書館本館 グループ学習室 (緑園キャンパス)	[テーマ]「ライオンと魔女」C.S.ルイス [ナビゲーター]藤本朝巳先生(図書館長・本学文学部教授)
サマースクールプログラ ム@横浜	8月7日(金)	緑園キャンパス 4号館 Fカフェ	福島県の小中学生20名を横浜に招くボランティアセンターの プログラムで朗読を披露 [朗読]朗読チーム [演目]「緑のスキップ」安房直子
選書ツアーとPOPの書き 方講座	9月2日(水)	三省堂書店神保町本店	「今フェリス生が読みたい本」をコンセプトに学生メンバーが 74点を選書 POPの達人である三省堂書店員によるPOPの書き方講座
文学散歩	9月11日(金)	神奈川近代文学館 横浜市史資料室(横浜 市中央図書館内)	神奈川近代文学館「佐野洋子展」を見学 横浜市史資料室「戦後70年戦争を知る、伝える 横浜の戦 争と戦後」展示を見学
展示「選書ツアーに行っ てきました!～今フェリス 生が一番読みたい本」	10月2日(金)～ 12月21日(月)	緑園図書館3階 展示コーナー	9月に行った選書ツアーで購入した図書74点の展示

イベント名称		開催日	開催場所	内容
大学祭	展示	10月31日(土)～ 11月1日(日)	緑園図書館2階 エントランスホール	大学祭企画 年間テーマに関する展示
	クイズ	10月31日(土)～ 11月1日(日)	緑園図書館2階 エントランスホール	年間テーマに関する展示からのクイズ 正解者には読プロオリジナルしおり・オリジナルキャラクター 「リプロくん」の付箋をプレゼント
	ワークショップ	10月31日(土)～ 11月1日(日)	緑園図書館2階閲覧席	「縫わずにできちゃう ブックカバーを作ろう！」 布とボンドを使ったブックカバーの製作体験
	朗読会	10月31日(土)	緑園図書館3階 教員・院生閲覧室	大学祭企画 朗読チームによる朗読発表 【朗読】朗読チーム、すずの音(ね)(朗読チームOG) 【演目】 ・朗読チーム 『野ばら』小川未明、『口紅のとき』より『6歳』角田光代、『空 白330円』角田光代、『鼻』芥川龍之介 ・朗読チームOG『すずの音(ね)』 『家守綺譚』より『紅葉』『葛』『萩』梨木果歩 【演出・指導】鈴木千秋先生(本学朗読講師)
新企画 読み聞かせレッスン	12月8日(火)、 15日(火)、1月 12日(火)、19日 (火)、26日(火)	緑園図書館3階 グループ学習室 (緑園キャンパス)	【内容】読み聞かせの基本から本の選び方、手遊び・わらべ 歌などを学ぶ 【講師】 藤本朝巳先生(図書館長・本学文学部教授) 永井雅子先生(本学非常勤講師) 菊地彰子(読み聞かせ指導者)	
第3回読書会	12月15日(火)	緑園図書館4階 読プロミーティング ルーム	【テーマ】もう少し前に出会いたかった本	
展示「図書館にこんな本 があったのか！」	12月18日(金)～ 3月25日(金)	緑園図書館3階 RPコーナー	本学図書館にあるちょっと意外な？本を読プロメンバーが選 んでPOPとともに23点を展示	
小学校朗読会	2月9日(火)	緑園東小学校	近隣の小学校で全校生徒に朗読を披露 【朗読】朗読チーム、すずの音(ね)(朗読チームOG) 【演目】 ・朗読チーム 『緑のスキップ』安房直子 ・朗読チームOG『すずの音(ね)』 『ばんぶくりん』より『招き猫の肩こり』宮部みゆき 『いちょうの実』宮沢賢治 【演出・指導】鈴木千秋先生(本学朗読講師)	

イベント名称	開催日	開催場所	内容
第2回朗読会 「さあ、いっしょに前に進もう！」	2月14日(日)	神奈川近代文学館	朗読チームによる朗読発表 【出演】朗読チーム、すずの音(ね)(朗読チームOG) 【演目】 ・朗読チーム 「クリスマス・キャロル」ディケンズ ・朗読チームOG「すずの音(ね)」 「オズの魔法使い」フランク・ボーム 【演出・指導】鈴木千秋先生(本学朗読講師)
高校訪問	2月25日(木)	淑徳巣鴨中学・高等学校	淑徳巣鴨中学・高等学校教員からの依頼で、読プロの活動を紹介

コンクール

タイトル	募集内容	結果
POPコンテスト	図書館の資料を自作のPOPで紹介する	<p>【応募資格】学生 院生 科目等履修生 【応募期間】4月28日(火)～5月29日(金) 【応募数】19作品 【展示期間】6月16日(火)～10月29日(木) 【展示場所】緑園図書館2階展示コーナー 【選考結果(*上位入賞者のみ記載)】 大賞(ベストPOP賞) 『アルジャーノンに花束を』(ダニエル・キイス 著) 加藤 百仁花 (英文学科3年)</p> <p>入賞(目をひくで賞) 『リング』(鈴木光司 著) 阿部 果鈴 (日本語日本文学科2年)</p> <p>入賞(デザインにひきこまれるで賞) 『赤い蝋燭と人魚』(小川未明 著) 鶴田 ほのか (日本語日本文学科2年)</p>
創作コンクール	募集ジャンル:小説、詩、戯曲	<p>【応募資格】学生 院生 科目等履修生 【応募期間】5月26日(火)～10月7日(水) 【応募数】16作品(詩(9)・戯曲(1)・小説(6)) 【結果発表・授賞式】2015年1月13日(水) 【選考結果(*上位入賞者のみ記載)】</p> <p>詩部門 第2席「所感」 武田 真依 (国際交流学科2年)</p> <p>戯曲部門 該当作なし</p> <p>小説部門 第2席「つきのひかり」 ペンネーム '横井'(日本文学科3年) 第2席「Phobias」 池 茉莉 (日本語日本文学科1年) 第3席「恋するマリー」 ペンネーム '椿 画廊'(日本語日本文学科2年)</p>

関連科目

科目名	講義題目	履修年次	担当者	学期	内容(主題・目標等)
今年の一冊(12) (A Book for This Year)	洋画から原作へ	1234	福永 保代 先生	前	映画と原作を比較し、削除された部分、付加された部分、変更された部分、強調された部分について検討し、映画と原作についての理解を深める。
読書とメディア(7) (Reading and the Media)	編集する視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ	1234	森 亨 先生	後	<p>人と人、メディアと人、人とモノ.....情報のやりとりが生じる現象はすべてコミュニケーションと捉えることができる。コミュニケーションを担う媒体こそがすなわちメディアである。この講義はメディアというものを学ぶための総合的な知識とリテラシーを身に付けることで、人間力を高めることを目的とする。そのためにコミュニケーションやメディアの特性の違い、読むということ、書くということを歴史と理論と、そして講師の20年弱にわたる雑誌編集者の経験による実践をベースに学んでいく。</p> <p>というのも現代は、LINE、Facebook、ブログなど誰もが持っている種のメディアを持つことができる時代といえる。作家でなくてもテキストを書き、写真家でなくても写真を撮り、映画監督でなくとも動画を撮影し、それらをシェアできる。そして、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、本などのメディアを内包するものとしてウェブがあり、それらで毎日テキストを読み、写真を目にする。つまり、私たちは人類の歴史上、もっともテキストを読み書きし、写真を撮って見る環境にあるといえるだろう。</p> <p>そこで、情報を収集し、まとめ、アウトプットするという、かつてはマスメディアに属する人のための特別なスキルであった編集力を学び、それを活かす術を身に付ける。この広義の編集力・編集視点は、学校生活での卒業論文、就活のエントリーシート、社会人生活での企画書など、どの場面においても現代人にとって必須の能力である。そして、これらを身に付けることで、コミュニケーションを多面的に考察する力と、メディアリテラシーを身に付けてもらいたい。</p>

はじめに

フェリス女学院大学附属図書館 館長 藤本朝巳

大学図書館の目的とその機能は年々変わりつつあり、本来の図書館業務以外の様々な働きが期待されています。フェリスの図書館も、そうした期待に応えるべく取り組んでいますが、昨年度末に、1階のAV機器の刷新を行い、利用者の方々が映像・音響機器を使用する頻度は増えています。また、電子黒板を設置しラーニング commons 的機能を持つグループ学習室がよく活用されており、従来の読書目的の図書館から、多目的学習の場へと変化しつつあります。

毎年、フェリスの図書館は皆さまのご協力を得て高い評価をいただいています。朝日新聞出版発行の『大学ランキング』でも16年連続A評価を受けています。学生の利用も順調に推移しており、今年の大学祭でも、入館者数が1544人と去年同様、大勢ありました。

図書館は、2002年度から「読書運動プロジェクト(読プロ)」に活発に取り組み、毎年、豊かな実りを結んでいます。この活動では、学生たちが主体的にテーマを決め、それに沿って数回の読書会を開くだけでなく、関連の展示、文学ゆかりの地訪問など、ユニークな企画を立て、実践しています。

今年の読プロのテーマは「洋画から原作へ」でした。前期読書運動科目「今年の一冊」では福永保代先生のご協力を得て、「作品を映画で楽しむ」ことから、原作を(原文で)味わい、文学・芸術・歴史について講義も受け、関連資料(ファンタジー、名作・ドラマなど)の展示活動も重ねました。第2回読書会では館長が講義し、イギリス児童文学「ナルニア国物語」シリーズ『ライオンと魔女』の誕生秘話、作家の制作背景なども楽しく学びました。しばらく休会していました「読み聞かせ」の活動も復活し、地域への貢献もしていきたいと願っています。

一方、後期読書運動科目「読書とメディア」では、編集経験豊富な森亨先生のご指導のもと、「編集する視点から俯瞰し、理解するメディアとコンテンツ」と題してメディアの総合的な知識とリテラシーを実践ベースで学びました。現代はLINE、Facebookなど様々なSNSを使う時代ですが、その学びに加え、卒業論文、就活エントリーシート作成、さらに企画書作成など、学生にとって必須の文書作成とコミュニケーションを多面的に考察する力、メディアリテラシーなどを身に付ける良い機会となりました。

読プロの活動は上記以外にも、「フェリス・ランチ・コミッティー」との学食メニュー企画、ボランティアセンター主催行事での福島県の子どもたちとの交流、神奈川近代文学館での朗読発表会、また大学祭では「縫わずにできちゃう ブックカバーを作ろう!」での制作体験(148名参加)など多彩でしたが、今年の嬉しい成果は創作コンクール(小説・詩・戯曲)に16作もの優秀な作品の応募があったことです。

一方で、図書館にも様々な課題があり、オンラインでの情報検索や収集など、社会の変化に対応できるよう努力しております。また、増え続ける図書の設置空間も確保しなければなりません。皆様のさらなるご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 新入生勧誘イベント ◆

報告 国際交流学科 3年 中藤祥子



選書ツアーなど魅力的な活動をアピール

後者は現時点で読書好きでない人でも構わないということを強調しました。更に「読書運動プロジェクト」という団体名だけでは、実際にどのような活動をしているのか分かり辛いという意見を踏まえ、昨年度メンバーが作ったポップと選書ツアーで選んだ本を紹介しました。このように視聴覚を用いて分かり易く伝えられるように工夫しました。

そしてステージ発表後は読プロのブースにて待機すると共に、活動に興味を持って下さった新入生へ個々に対応する時間を設けました。今年度は朗読発表を織り交ぜた影響か、その活動に興味を抱く新入生も多く見られました。

上記の他にチラシ配りやポスターによる宣伝を用いて読プロの活動をPRしました。チラシは例年同様の枚数を配布することが出来ました。これらの活動が功を奏したのか、本年度は1年生4人が新たに加入してくれました。メンバーが増えたことでまた新たな活動が出来るので、一致団結してより有意義な時間を作っていきたいです。



今年度の新入生勧誘イベントは2015年4月2日に実施されました。内容としては昨年同様、チラシ配りとステージ発表です。ただ今回は寸劇ではなく模造紙を使用した発表スタイルに変更すると共に、新たに朗読チームによる詩の朗読が実施されました。

また発表内容は読プロの魅力的な活動と募集するメンバーの2つの軸を中心に構成しました。

前者は毎年夏に行われる選書ツアーや文学散歩、



朗読チームも加わり、読プロの魅力的な活動を紹介



ほくと
いっしょに
活動しよう!

◆ 読書会 ◆

第1回	5月18日(月)	【テーマ】フリー(私のおすすめ本) 今読んでいる本、友達に薦めたい本のレビュー
第2回	7月24日(金)	【テーマ】『ライオンと魔女』(C.S.ルイス著) ナビゲーター: 図書館長・文学部教授 藤本朝巳先生
第3回	12月15日(火)	【テーマ】もう少し前に出会いたかった本

◇ 第1回読書会 ◇

報告 音楽芸術学科1年 匿名

5月に行われた第1回読書会。テーマは特に定めませんでした。各自の今読んでいる本や友達に勧めたい本を持ち寄り、紹介し合いました。

私達1年生は初めてのイベントでしたので、始めは楽しみな気持ちが半分と不安な気持ちが半分でしたが、どの本の紹介もその本を読みたいという気になる語りで、楽しむことができました。本の紹介をすることはとても緊張しましたが、持ってきた本の魅力を伝えられるよう努力しました。

今回紹介された本は『最後のパレード:ディズニーランドで本当にあった心温まる話』『カラフル』『浜村渚の計算ノート』『ドラキュラ』『聖なる黑夜』『獣の奏者』『レアリア』『龍のすむ家』『食堂かたつむり』『しかけのあるブックデザイン』『まってる。』『フランス人は10着しか服を持たない:パリで学んだ“暮らしの質”を高める秘訣』です。

普段は同じ作者さんだったり同じようなジャンルの本だったり狭い範囲でしか本を読んでいませんでしたが、この読書会を通して新たに本を知ることができてよかったです。これを機に読書会で紹介された本だけではなく、違うジャンルの本にも挑戦してみようと思いました。そして自分が知っていた本についての紹介でも聞いていると、自分とは違う視点の感想もあり、新たにその本の魅力に気づくことが出来たのがよかったです。

新しい本を読んだり、読んだことのある本でも読み返したりしようと思える良い機会だなと思いました。



第1回読書会

◇ 第2回読書会 ◇

報告 図書館 森園佳子



ポスター作成：図書館

第2回読書会は今年度の活動テーマに合わせて、2006年に映画でも公開され話題となった『ライオンと魔女』をテーマとしました。

参加者は事前にそれぞれ作品を読み、映画のDVDを見て読書会に集まりました。図書館長である文学部教授の藤本朝巳先生にナビゲーターをお願いしたため、昼休みという短い時間にもかかわらず、ファンタジー文学が19世紀半ばにイギリスで起こった背景や、ナルニア国シリーズ7冊の最初の作品である『ライオンと魔女』についてわかりやすく解説していただけて、とても内容の濃い読書会となりました。集まった参加者もファンタジー好きの人が多かったため、先生の話に真剣に耳を傾け、メモを取っていました。

藤本先生によると、第一作目の『ライオンと魔女』のなかに、その先のシリーズで起こる物語の伏線が描かれているそうです。それを聞いて、シリーズの続きの作品もいずれ読書会で取りあげてみたいと思いました。



第2回読書会

◇ 第3回読書会 ◇

報告 国際交流学科2年 藏田香織

第3回読書会は「もう少し前に出会いたかった本」を紹介しました。『君たちはどう生きるか』吉野源三郎著、『あさきゆめみし』大和和紀著、『小僧の神様』より「清兵衛と瓢箪」志賀直哉著、『永遠の0』百田尚樹著、『分身』東野圭吾著、『アルケミスト：夢を旅した少年』パウロ・コエーリョ著。ネットで評価を見て読んで



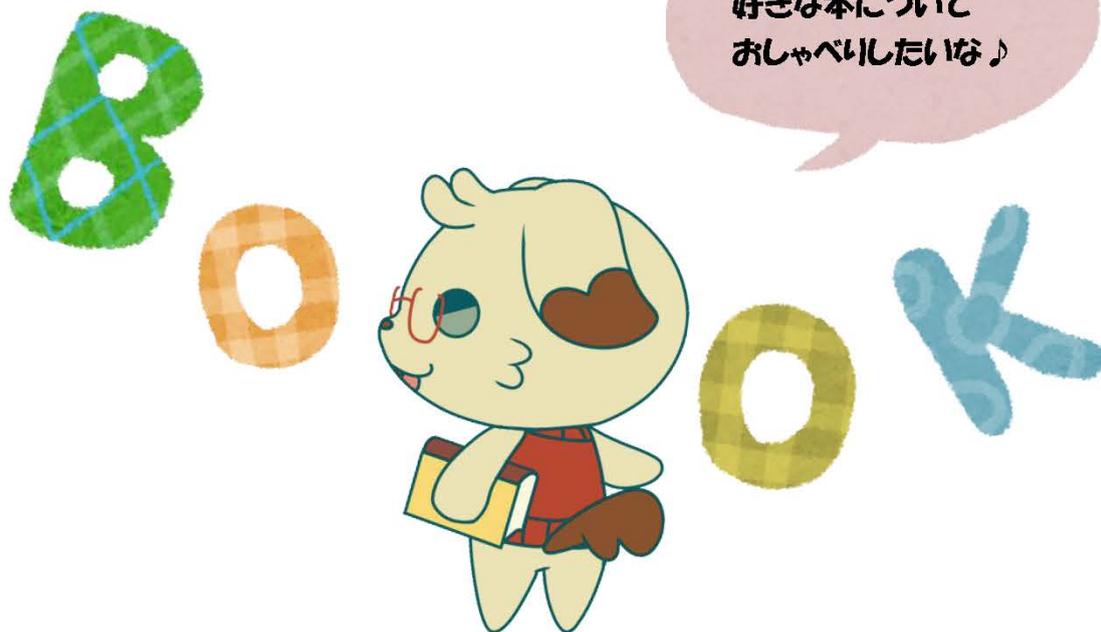
第3回読書会

みた人から、自分で出会った人まで色々でしたが、中には「もしもう少し早く出会っていたら人生は全く違う方向に動いていたかもしれない。」という意見も出ました。

本を読むことがあまり得意ではない人は、単に自分にとって運命の本に出会っていないのではないのでしょうか。本屋に行って何が大変かって、膨大な蔵書の中から飽きない本を探すことだと思います。

POPの役割は素敵な本への道しるべ。ならば私たち読プロの役割はたくさん本からエッセンスを抜き出して紹介することで、その人にとって運命の本を探すお手伝いができるのではないかな。本には人生を変えるような大きな力が込められている。そんな風にたくさんの人に伝えていけたら幸せだなと思う会でした。

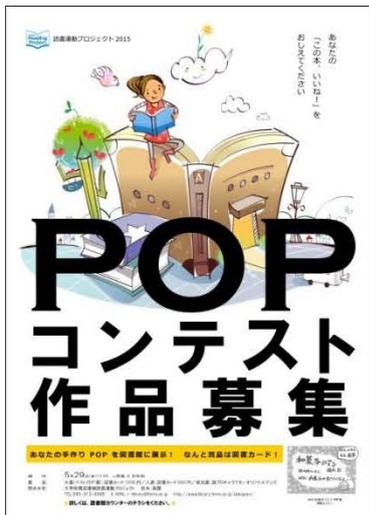
ほくもいろんな人と
好きな本について
おしゃべりしたいな♪



◆ コンテスト・コンクール ◆

報告 図書館 森園佳子

◇ POPコンテスト ◇



ポスター作成：図書館

今年度は昨年度の17作品を上回る19作品もの応募がありました。POPコンテストが回数を重ねるごとに応募される作品のレベルは上がっており、今年も昨年度に引けを取らないオリジナリティあふれるPOPが数多く見受けられました。中でもベストPOP賞（大賞）に輝いた『アルジャーノンに花束を』（ダニエル・キイス著）の世界を繊細な貼り絵で表現した加藤百仁花さん（英文学科3年）の作品は秀逸で、淡く優しい色合いとネズミの可愛らしさがひととき目を引くPOPでした。また、『リング』（鈴木光司著）の阿部果鈴さん（日本語日本文学科2年）、『赤い蝋燭と人魚』（小川未明著）の鶴田ほのかさん（日本語日本文学科2年）の作品が入賞しました。



ベストPOP賞（大賞）



入賞



入賞

◇ 創作コンクール ◇

今年度の創作コンクールには詩部門9作・戯曲部門1作・詩部門6作の全16作の応募がありました。厳正な審査の結果、詩部門では国際交流学科2年の武田真依さんの「所感」が他の作品を抑え、第2席を獲得しました。戯曲部門では残念ながら受賞作が出ませんでした。小説部門では日本文学科3年のペンネーム「横井」さんの「つきのひかり」と、日本語日本文学科1年池茉莉さんの「Phobias」の2作品がそれぞれ第2席に輝きました。「横井」さんは昨年度も応募され惜しくも受賞を逃しま



ポスター作成：図書館

したが、今回の作品で第2席を獲得し、みごとリベンジを果たしました。今後もぜひ続けて挑戦してほしいです。また、長編にもかかわらず飽きさせないストーリー展開で読者を引き付ける「Phobias」を執筆した池さんは、これからの成長がとても楽しみな1年生です。小説部門の第3席には、安定した文章力が評価され、昨年度も入賞した日本語日本文学科2年ペンネーム‘椿画廊’さんの「恋するマリー」が選ばれました。

第2席以上を受賞した作品は製本し、ご本人に贈呈するとともに図書館の蔵書として未永く保存されます。



受賞者のみなさん、おめでとうございます！

わあ～！

こんな本に
なるなんて
すてきだな



過去の創作コンクール作品集

◆ 展示 ◆

展示名	開催期間	内容
洋画から原作へ～ 本の旅に出かけよう①	4月1日(水)～6月11日(木)	年間テーマ関連 ジャンル「ファンタジー系」の資料38点 (他に聖書1点と聖書が元になった映画4点を展示)
洋画から原作へ～ 本の旅に出かけよう②	6月11日(木)～10月7日(水)	年間テーマ関連 ジャンル「名作・ドラマ系」の資料48点 (他に聖書1点と聖書が元になった映画4点を展示)
洋画から原作へ～ 本の旅に出かけよう③	10月7日(水)～3月31日(木)	年間テーマ関連 前2回のジャンル以外の資料32点(他に聖書1点と聖書が元になった映画4点を展示)
POP コンテスト作品展示	6月16日(火)～10月29日(木)	POP コンテストに応募された19作品および図書の展示
「選書ツアーに行ってきました!～今フェリス生が一番読みたい本」	10月2日(金)～12月21日(月)	9月に行った選書ツアーで購入した図書74点の展示
図書館にこんな本があったのか!	12月18日(金)～3月25日(金)	本学図書館にあるちょっと意外な(?)本を読プロメンバーが選んで、POPとともに23点を展示

◇ テーマ展示 洋画から原作へ～本の旅に出かけよう ◇



年間テーマポスター



テーマ展示 「洋画から原作へ」

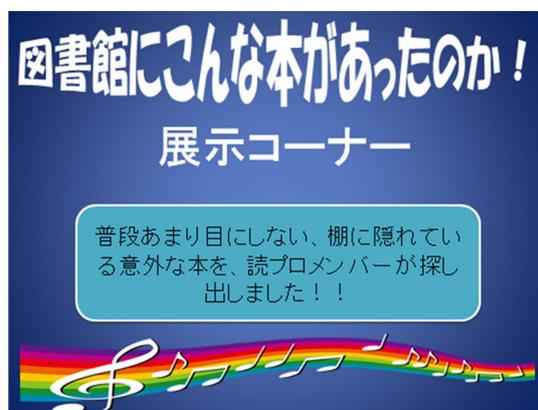
◇ POP コンテスト作品展示 ◇



◇ 選書ツアーに行ってきました！～今フェリス生が一番読みたい本展示 ◇



◇ 図書館にこんな本があったのか！展示 ◇



◇ 展示 ◇

報告 図書館 秋葉祐子

今年度の読プロテーマは、「洋画から原作へ～本の旅に出かけよう」です。まず、膨大な量のある洋画の中から、図書館に所蔵がある原作の図書とDVDとをセットで展示できる作品を抜粋し、そこからさらに3つのジャンルに分けました。「ハリー・ポッター」「ロード・オブ・ザ・リング」などの“ファンタジー系”、「風と共に去りぬ」「レ・ミゼラブル」などの“名作・ドラマ系”と、それ以外の作品とを時期を分けて展開しました。読プロメンバーのPOPもつけ、セットで見やすく展示し、「ハリー・ポッター」シリーズなどは図書もDVDも常に利用が多く、好評でした。

POP コンテストの展示では、形が斬新なものや貼り絵など今年も力作が多数あり、展示して半日程で半分以上が貸出しになるなど、POPの持つ魅力を改めて感じさせられました。読プロメンバー以外の学生からの応募も多く、来年もユニークなPOPの展示ができるのではないかと楽しみです。

夏休みの9月に行った選書ツアーでは、POP王によるPOP講座(p.12参照)も受講しました。そこから段々と読プロメンバーが作るPOPがさらに良くなり、おのおのが自分の得意分野(イラスト、キャッチコピー、貼り絵などの工作、文章など)を生かした、目立ち、見やすい、目に留まりやすい、特徴あるPOPになっていきました。無理に自分の苦手分野を入れこまなくても、POPはこの本を紹介したいという強い思いがあれば、その人の良さが表れ、見る人にも伝わるといふPOP王のアドバイスが参考になった様でした。選書のジャンルもフェリスの学生の今読みたいものにぴったりと合ったのか、学生が選書しPOPをつけた展示は数日後には半分以上が貸出中になり、展示期間中は常に展示コーナーがガラガラになるほど大好評となりました。

年度最後の企画展示は、読プロメンバーからの「図書館に埋もれて目につきにくい図書を発見したい！」との提案で、大学図書館にあるとは思わないような意外な本をメンバー達が集め、「図書館にこんな本があったのか！」コーナーを展開しました。パイナップルの歴史や、メガネの文化史、日本の絶景の写真集など、盛りだくさんな内容で今年度の展示を締めくくる事ができました。来年度も展示をきっかけに、多くの本に利用者の方が触れてもらえることを願っています。



◆ コラボランチ ◆

◇ エクスペクト・マカロニ〜ハリーが愛したプレート〜 ◇

報告 図書館 秋葉祐子

今年度も、読プロとFLC（フェリス・ランチ・コミッティー）との共同企画による、学生食堂メニューが実現しました。双方のメンバーが何回もミーティングを重ね、読プロのテーマにぴったりのメニューが今年も登場しました。



パイが食パンで作られていることにびっくり！

今年の読プロテーマが「洋画から原作へ」ということで、話し合いの始めは、このメニューだと何の映画かすぐわかるものを！とメンバー達は考え始めましたが、数多くある洋画の中から誰もが知っている料理となると、なかなかメニューの具体例が挙がらず苦戦していました。そこで、フェリス生を含め観た人がたくさんいる「ハリー・ポッター」から、ゆかりのあるメニューをと方向

を変え、検討し始めました。まず最初に決まったのが、ハリーの好物の「糖蜜パイ」。魔法学校のホグワーツに入学した年のお祝いのパーティでも登場したこのパイをデザートにすることが決まり、メインはハリーも好きでイギリスの家庭料理でもある「マカロニ・チーズ」になりました。FLCのアイデアで、彩りと栄養面を考えブロッコリーを入れたり、ボリューム不足を麦芽ロールを添えることで補うなど、FLCからはその都度的確なアイデアがスムーズに出てきて驚きました。また、FLCよりサイドメニューの候補として、イギリス風のスープとサラダとで3メニューずつ提案があり、皆で話し合い「イギリス風スコッチ・ブロス」（大麦と野菜のコンソメ風スープ）に決定し、プレートが完成しました。

ネーミングは、ハリーの呪文「エクスペクト（〜来たれ）」からとり、「エクスペクト・マカロニ〜ハリーが愛したプレート〜」に決定。ポスターをFLC、POPを読プロが担当し、ファンタジーの世界を味わえる学食メニューとなりました。

邦画やジブリ映画などは、食事の場面が丁寧に描かれています。洋画となると学生達には最初の段階ではかなり難しかった様です。学生食堂の調理の方と日頃から意見交換をしているFLCメンバーからの相次ぐ提案に、読プロメンバーも刺激を受け充実した打ち合わせの時間を経験できたと思います。来年度はどんなメニューができるのか、今から楽しみです。



糖蜜パイ、甘くておいし〜♡

◆ 選書ツアーと POP の書き方講座 ◆

報告 国際交流学科 2年 匿名

9月2日読書運動プロジェクトの活動として選書ツアーを行いました。今回は三省堂書店神保町本店で行われました。

そして今回は選書の前にPOPの書き方の講座が行われました。私たちのために開いてくださったのでとても感謝です。POPの書き方を教えてくださったのはPOP王と呼ばれる書店員さんでした。(テレビにも出演されたそうです。)自己紹介で先生がPOPを書くことになった経緯を聞きました。

ある本屋ではPOPを書いたことにより売り上げが上昇したことや、お客さんがPOPを楽しむにしてくれたことを話してくれました。また先生が今まで作ったPOPも見ることができました。ほとんどが文字でしたが紙の色や構成がとても印象に残っています。また図書館員さんが今までのフェリス図書館のPOP作品を持ってきていて、それを先生が評価するということがありました。私も事前に描いてきたPOPを出しました。私は文章がうまく書けないのでいつもイラストで提出しているのですが、その時先生に褒められました。先生は自分の得意なものでPOPを書けばいいと言ってくれました。それ以降私は文字をあまり書いていません。



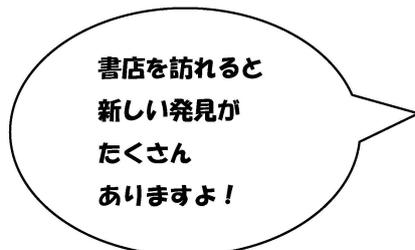
く様々な図鑑のようなものを選んでいる人もいて各人の個性が見受けられます。

終わって休んでいる間に何百枚もある先生が作ったPOPをじっくり読みましたが、どれも面白くて、これから自分も毎回本を読むたびにPOPを書きたいなと思うようになりました。



POP王 内田氏によるPOP講座

お昼を挟んで担当さんからの注意事項のあと選書ツアーが始まりました。やはり本店なので広いので様々な本があります。自分が読みたいのから選べるのでこのツアーは好きです。途中、私で使用していた機械が故障していることが判明してもう一度やり直すことがありましたがなんとか選びました。あとで貰った選書リストを見ると、小説だけではなく



◆ 文学散歩 ◆

◇ 神奈川近代文学館「佐野洋子展」◇

◇ 横浜市史資料室「戦後 70 年戦争を知る、伝える—横浜の戦争と戦後」展示 ◇

報告 演奏学科 1 年 吉満みなみ

読書運動プロジェクトに入会してから約 4 か月がたった 9 月 11 日、待ちに待った夏のイベント文学散歩に参加しました。文学散歩とは読書運動プロジェクトの夏のイベントで著者のゆかりの土地や小説で舞台となった場所などを見学します。今回参加したのは『100 万回生きたねこ』で有名な絵本作家佐野洋子さんの「まるごと佐野洋子展」と、読書運動プロジェクトの来年度のテーマ「平和を考える」にちなんで横浜市中心図書館内の資料室にて行われていた「戦後 70 年戦争を知る、伝える—横浜の戦争と戦後」の展示会を見てきました。

一つ目に訪れた神奈川近代文学館にて行われていた「まるごと佐野洋子展」、入り口には『100 万回生きたねこ』の登場人物トラ猫と白い猫の絵が壁一面に描かれていて、幼い時に小学校の図書館でこの本を手にとった時のワクワクとした思い出がよみがえってくるようで感動しました。その他にも展示会では佐野洋子さんの生い立ちや過去の作品などを展示しており、佐野洋子さんが猫好きなことや作品を生み出す経緯などを知ることができ、とても充実した時間を過ごすことができました。



二つ目に訪れた横浜市中心図書館での展示会では横浜という美しい土地が戦争時代にもどのような被害を受けたのか、70 年たった今戦争という恐ろしさを知らない私たち若い世代にこの展示会での様々な想いが文章から伝わってくるようで、横浜の歴史を知れたことへの喜びと壮絶な過去の事実複雑な思いに駆られました。この二つの文学散歩を通し今まで表面でしか知りえなかった文学の世界や横浜の歴史、また普段ミーティングでしか顔をあわせない同じメンバーとの交流など大学生活にやっと慣れてきた私にとってとてもいい経験となりました。今後も読プロの一員として様々な活動に参加して行きたいと思いました。

横浜の戦時中・戦後の歴史を改めて知り、考える機会となりました！



小さい頃に読んでもらった作品で懐かしかったです！

◆ 大学祭 ◆

展示	10月31日(土) ～11月1日(日)	大学祭企画 年間テーマに関する展示
クイズ	10月31日(土) ～11月1日(日)	年間テーマに関する展示からのクイズ (正解者には読プロオリジナル付箋をプレゼント)
ワークショップ	10月31日(土) ～11月1日(日)	「縫わずにできちゃう♪ブックカバーを作ろう！」 布とボンドを使ったブックカバーの製作体験
朗読会	10月31日(土)	朗読会の項 (p.21～) 参照



ポスター・チラシ・付箋作成：図書館

◇ 大学祭の展示&クイズ ◇

報告 日本語日本文学科1年 小根山桃子

模造紙の準備を文化祭前から手掛けている人が多く、当日朝に慌てて各作業をしている人はいませんでした。また、模造紙を張るパネルの出し入れ及び組み立てに関しましても、滞りなくスムーズに準備ができていたと思います。

文化祭中のパネルクイズも、大人子供関わらず比較的多くの方々に楽しんでいただけたのではないかと思います。とくに、見に来た一般の方の中に、パネルについて詳しく説明できる人はいないのかという質問をされました。模造紙は、テーマが決まっているもの以外は、各々自由に描かれているので、説明はできませんでした。パネルに興味を持っていただいた方に説明できる人がいればとは思いますが、やはり人数上難しいと判断でき、残念に思われます。



パネル展示の様子



クイズの答えはどこだ？

クイズの景品に関しては、大人の方はしおり、付箋が人気であり、子供さんには鉛筆、付箋が好評でした。ただ、シールは、何人かの子供さんが手に取ってはいたものの、あまり人気がないようでした。保護者の方のお話を聞いていると「すぐに無くしてしまう」と言うお話をしていたので、3枚一組にして袋に入れて渡すなど工夫したら、もっと手に取ってもらえたかもしれません。

文化祭後のパネル片付けも短時間で終わらせることが出来ました。来年の展示パネルや、クイズに生かせたら良いなと思います。



クイズできました！



◇ ブックカバー作り ◇

報告 国際交流学科3年 今井舞菜

今年度も大好評のブックカバー作りを行いました。今年は、2つの新しい取り組みを行いました。

1つ目は大学祭のパフレットにブックカバー作りのクーポンを付けました。クーポンを見せてくれたお客様には飾りつけを1つプレゼントしました。予想していた以上に多くのお客様がクーポンを提示してくれました。また、どの飾りつけにしようかととても迷っている姿はとても嬉しかったです。クーポンを持っていないお客様にも飾りつけができるように、メンバー一人一人がフェルトで型を切って用意しました。色々な形のフェルトが用意できました。手作りのフェルトは好評でした。



2つ目は混乱を避けるために順番に椅子に座って待ってもらいました。毎年大好評のコーナーのため時間内に全てのお客様ができないことがありました。以前、混乱を避けるために紙に名前を書いて待ってもらう年がありましたが、順番が来た時に図書館にいらっしや



みなさん説明を真剣に聞いて作っていました

らないことがありました。しかし、今年はどれだけ混んでいるのか一目で分かり、さらにスムーズに順番に呼ぶことができました。その結果、2日間とも何事もなく、お客様にブックカバー作りを楽しんでもらうことができました。

私にとって3年目の学祭はとても充実した2日間を過ごすことができました。毎年楽しみにしてくれているお客様、窓越しから興味を持って走ってきてくれる子ども達。手先が器用なお客様、丁寧にボンドを塗るお客様など、お客様によって少しずつ異なるブックカバーが出来上

がります。出来上がった後にほとんどのお客様が笑顔で「ありがとう」と言って下さる時は嬉しい気持ちでいっぱいになります。

毎年喜んでくれるお客様のために、そして読プロを知ってもらうために、これから学内だけでなく学外の方にも楽しんでもらえる活動を続けてほしいと思います。

◆ 高校訪問 ◆

報告 図書館 森園佳子

淑徳巣鴨中学・高等学校から読プロの活動内容を生徒に話してほしいと依頼があり、2016年2月25日（木）に中学1年生から高校2年生の図書委員約45名を対象に読プロの活動を紹介するため、同校を訪問しました。読プロの学生メンバー4人が資料作成班と発表班に分かれ、Power Pointで「読書会」「選書ツアー」「大学祭」「朗読会」などの活動内容を丁寧に説明しました。プレゼンテーションの最後には、メンバー一人ずつから中高生に向けて「大学は自分のやりたいことが出来る場所。



読書推進だけでなくいろいろなことにチャレンジしてほしい」「外国作品は、翻訳本と原書を一行ずつ比べて読むと英語力もアップしておススメ」「たくさん本を読んで、友達にたく



さん本を紹介してほしい」「フェリスのオープン・キャンパスに来て、ぜひ実際に図書館を見学してほしい」などのメッセージを贈りました。日頃から読書推進をしている図書委員の生徒さんたちが、大学での読書に関わる活動ということで、読プロに興味を持って真剣に聞いてくれた姿が印象的でした。

また、メンバーが以前に作ったPOPを教室の一角に置き、教室から出る際に手に取って見ることができるようになりました。

図書委員はPOP作成もするという事なので、参考にしてもらえたら嬉しいです。

淑徳巣鴨高校からは毎年フェリスに入学される学生も多いということもあるので、これを機会に長く交流が続けられればよいと思いました。



「フェリスの図書館を見に来てくださいね」

◆ 読み聞かせレッスン ◆

報告 図書館 森園佳子



今年度は読み聞かせを学べるレッスンを開催しました。読み聞かせは、かつては読プロ関連科目で学ぶことができ、近隣の保育園や小学校に出向いての実習などがありましたが、ここ数年は休講でレッスンもお休みとなっていました。しかし、図書館長の藤本先生のゼミ生などから読み聞かせを学びたいという強い希望があり、大学の授業としてではありませんが、「読み聞かせレッスン」を開催することになりました。本学の非常勤講師で児童英語教育の専門家である

永井雅子先生、読み聞かせや手遊びの指導者である菊地彰子先生というお二方を講師にお招きして、後期の後半で5回のレッスンを実施し、11名の学生が参加しました。

レッスンでは基礎として、藤本先生と永井先生から絵本の持ち方や選書の仕方、また読み聞かせの大切さなどを教わりました。絵本を選ぶ際には、20年間絶版になっていないものはよい絵本といえるので一つの基準となる、などの話を学生たちは真剣に聞いていました。

菊地先生は伝承されている昔話の語りや手遊びを実演してくださり、聴いている私たちは子どもに返ったような気持ちで楽しませていただきました。しかし、学生よりはるかに年長である職員の私ですら、知らない手遊び歌がたくさんあることに驚きました。手遊びやわらべ歌は遊んでいるうちに知らずに子どものリズム感や音感を鍛え、親子のスキンシップにもなる大切なコミュニケーションでもあるので、すたれないよう、未来の子どもたちに伝えていくべき大切な文化だと思いました。

来年度はレッスンの回数を増やして学生にも練習を積んでもらい、近隣の小学校などを訪問できたらと思います。



「絵の中に隠れているものは何でしょう？」



◆ サマースクールプログラム朗読発表 ◆

8月7日（金）	演目：「緑のスキップ」 安房直子
---------	------------------

報告 音楽芸術学科1年 鈴木珠友

本校のボランティアセンターで企画していた、3泊4日のサマースクールプログラムの2日目に、朗読チームが依頼され参加しました。

サマースクールプログラムの目的は、東日本大震災の被災地である福島県に住む、小学5年生から中学3年生の20名ほどの子供達が、横浜の地でのびのびと過ごせるようにすることです。また、楽しい夏の思い出を本学の学生と一緒に作ることでした。

今回のサマースクールプログラムは、楽しくするだけが目的ではなく、学びも取り入れたかったですし、また、大学生が企画運営するものなので、キャンパスライフも紹介したいと思いました。そのため本学の特徴であるエコを学ぶことを2日目のテーマにしました。



ただエコを座学で学ぶのではなく、本学での授業以外の活動も取り入れたかったため、エコを題材にした朗読を私たちが依頼され、サマースクールプログラムに参加することになりました。

私たちは、子供達にわかりやすく短い話を見つけるのに苦労しました。また、福島県の心身ともに敏感である子供達を配慮した話を見つけるのに頭を抱えました。結果、季節が変わる大切さを題材にした「緑のスキップ」を朗読することになりました。

短い練習期間でしたが、子供達の前で朗読する機会をもらえて嬉しかったため一生懸命取り組みました。その思いが伝わったのか、最終日まで子供達は、「緑のスキップ」の合言葉をつぶやいていてくれ、面白かったと感想を言ってくれました。

私はこの活動を通して、今後も子供達へ朗読会を開き、朗読の素晴らしさを伝え、朗読を通して人との交流をしていきたいと思いました。



◆ 小学校朗読会 ◆

2月9日（火）	演目：「緑のスキップ」安房直子 『ぱんぷくりん』より「招き猫の肩こり」宮部みゆき 「いちょうの実」宮沢賢治
---------	---

報告 図書館 森園佳子

昨年度に引き続き、今年度も近隣の緑園東小学校に朗読チームとそのOGである朗読グループ「すずの音（ね）」が招かれ、同校の体育館で朗読会を行いました。

今回は1年生から6年生までの約400名という大勢の児童を前にし、学生の5名は夏のサマースクールプログラムでも披露した「緑のスキップ」を、すずの



「緑のスキップ」楽しんでくれるかな？

音は「招き猫の肩こり」「いちょうの実」という短めの2作品を読みました。学生

が読んだ「緑のスキップ」は何度も朗読会で発表していますが、回を重ねるごとに読みがうまくなっているのを実感し、感動を覚えます。



OGの「すずの音」も参加

すずの音はスライドを使って絵本の絵を映し出し、小学生に楽しんでもらえるように演出しました。また、すずの音



が朗読した作品には男女2名の6年生も加わりましたが、とても初めて朗読を披露したとは思えないほどはっきりとした声で堂々と読み上げ、指導者の鈴木千秋先生も驚くほどのレベルでした。低学年の児童も飽きずに楽しんでくれたようだったので、とても嬉しかったです。

朗読会の後は図書室に移動して、図書委員のみなさんと交流の時間を持ち、楽しいひとときを過ごすことができました。これからもずっと小学校とのつながりを持ち続け、朗読に触れたことで小学生のみなさんが読書や朗



読に興味を持ってくれることを期待しています。



◆ 朗読会 ◆

第1回	10月31日(土)	<p>大学祭朗読会</p> <p>演目：「野ばら」小川未明</p> <p>『口紅のとき』より「6歳」角田光代</p> <p>「空白330円」角田光代</p> <p>「鼻」芥川龍之介</p> <p>『家守綺譚』より「紅葉」「葛」「萩」梨木果歩</p>
第2回	2月14日(日)	<p>文学館朗読会</p> <p>テーマ：「さあ、いっしょに前に進もう！」</p> <p>演目：「クリスマス・キャロル」ディケンズ</p> <p>「オズの魔法使い」フランク・ボーム</p>

◇ 大学祭朗読会 ◇

報告 図書館 森園佳子

10月31日の大学祭で毎年恒例の朗読会を行いました。今年は朗読チームOGの「すずの音」のメンバー4名にも、参加してもらうことができました。演目はメンバーのそれぞれが自分で選んだ作品だったこともあり、熱のこもった朗読ばかりでした。今回が初めての朗読会出演となる2人のメンバーは、猛練習を重ねた成果をみごとに示すことができましたが、朗読会の舞台を何度も踏んでいるOGの朗読を間近で聴けたのは、とても勉強になったことでしょう。



ポスター作成：図書館

◇ 神奈川近代文学館での「クリスマス・キャロル」講演を振り返って ◇

報告 日本語日本文学科 2年 阿部果鈴



ポスター作成：図書館

私は2年生の11月、大学図書館の運営する読書運動プロジェクトの朗読チームに加入しました。朗読には、音読するという意味だけでなく、「感情をこめて読み上げる」といった意味合いも含まれているそうです。今回の講演で、文学作品をどのように解釈するかということに向き合う機会になり、これからの朗読の目標も明確なものとなりました。

私は2月14日の神奈川近代文学館が初めての講演参加であり、演目はディケンズの「クリスマス・キャロル」でした。先生からの指導で特に参考になったことは、作中で特徴が明確にされていない登場人物の設定を想像するということです。

私が演じたのは、子どものようだが老人のような「第一の幽霊」と、夫を冷遇する主人公に苛立つ大家族の母親「ボブの妻」。

静かに主人公を責め立て改心を促す「第一の幽霊」と、ヒステリックに感情を爆発させる「ボブの妻」、対極の二者を演じ分けるのは容易ではありませんでした。ゆっくり・はっきり・大きく、という発声の基礎を守るだけでも初心者には難しいのですが、「第一の幽霊」のように比較的静かな演技をする場合、発声の基礎である「はっきり・大きく」がおざなりになってしまい、何度も指摘を受けました。本番では発声の基礎を意識して朗読することはできましたが、静かさのある演技を加えるまでには至らず、これからの課題であると感じました。これからも、基礎練習を積み腹式呼吸の発声をしっかりすることで、幅広い朗読ができるようになることが今後の目標です。



◆ 朗読チームの活動を振り返って ◆

◇ 一年間を振り返って ◇

報告 コミュニケーション学科4年 高橋里奈

今年度は朗読チームの一員として活動する最後の年でした。恒例の大学祭や神奈川近代文学館での朗読会に加え、サマースクールプログラムや緑園東小学校で朗読する機会をいただき、勉強になることばかりでした。特に、緑園東小学校での朗読会は授業の関係などでなかなか参加することが出来ず、最後の最後で参加することが出来ました。OGグループである「すずの音」の皆さんによる朗読や、小学生の子たちの朗読に刺激をもらい、素敵な経験をさせていただいたと思っています。



大学祭

自分の中のひっそりとした今年度の目標として「聞いてくださるお客様のほうを見る」というものがありました。これまで、練習でやってきたとおりに読むことでいっぱいいっぱいになっていることが多く、客席のほうにまで気を向けることが出来ないうままでした。また、極度の緊張しいのため客席のほうを向けば確実に頭が真っ白になって読む場所がわからなくなってしまうだろうという恐怖感もありました。台本に目を落とすことで、その恐怖から逃げていたのだろうと今になってみると思います。それが和らいたのが、サマースクールプログラムの一環として「緑のスキップ」を読ませていただいたときでした。そこで、客席へ視線を投げることで、聞いている人の雰囲気を感じたり語りかけている気持ちが強くなった気がしたのです。それからは自分としてはわりとお客様のほうへ視線を向けることが出来たように思います。その甲斐あってか、今年度の神奈川近代文学館での朗読会では、本番後にお客様から声をかけていただいたりもしました。



神奈川近代文学館での朗読会

思えば、同学年の仲間もいないまま、4年間よくやり通したものだ自分でも驚いています。それもひとえに「朗読が好きだ」という気持ちがあったからこそここまでやってこられたのだろうと思います。その気持ちを大切に、卒業してもこれからも朗読を続けていきたいです。4年間御指導下さった鈴木千秋先生、さまざまなサポートをして下さった図書館の皆様、切磋琢磨朗読の技術を磨いてきた朗読チームの仲間たちへ、感謝の気持ちを伝えても伝えきれないです。本当に、今までどうもありがとうございました。

◇ 朗読チームの一年間の振り返り ◇

報告 日本文学科3年 坂本紫緒里



サマースクールプログラム

一年間を振り返ると、個人的には新しいことにたくさん挑戦できた年でした。大きなイベントとしては、秋の「大学祭での発表」と2月の「文学館での発表」がありましたが、今年は夏休みに「サマースクールプログラム内での発表」、冬に「緑園東小学校での発表と生徒さんとの触れ合い」をしました。

夏休みの期間内に携わらせていただいた「サマースクールプログラム」では、福島県からサマースクールプログラムのキャン

プ(宿泊体験)に来ている子供達を対象に、朗読の発表をさせていただきました。大学のエコキャンパス委員会の学生の皆さんを中心に、フェリスと「エコ」に関するプロジェクトを考えてくださった一環の内での発表で、とても良い経験になりました。今回はテーマが「エコ」ということで、朗読の作品を選考するところから色々考えて発表に至りました。今回朗読した作品は、安房直子さんの「緑のスキップ」です。一見すると森の中のかわいい動物たちのお話ですが、春夏秋冬の自然の原理や、美しい自然の大切さを考えさせられます。活動への参加ははじめてで、このようにテーマのある中で子供達を対象に朗読をしたのははじめてだったので、良い経験になりました。

冬の「緑園東小学校での発表」も、例年同様、生徒さんと有意義な時間を過ごすことができました。私は今回が初めての参加だったのですが、緑園東小学校からお招きいただきよい経験ができました。小学校の体育館で発表をさせていただいたのですが、たくさんの方の生徒さんを前に発表するのは、私たちもはじめてだったので、緊張しました。しかし、低学年の生徒さんも真剣に朗読を聞いてくださり、生徒さんたちの生の反応を見られて良かったです。朗読会終了後には高学年の図書委員会の生徒さんたちとの触れ合いがあり、本や日頃の活動についてお話ができました。

毎年イベントとして、「大学祭での発表」と2月の「文学館での発表」も昨年度に劣らない会となりました。今年は、活動メンバーこそ少なかったものの、活動の内容は濃く、主に子供達や地域住民の方々との触れ合いの中で、本や朗読の本質を考えることができ充実した年となりました。



緑園東小学校での朗読

◆ プロフィール（学生メンバー） ◆

氏名（学科・学年）

- ① 今年の読書の活動で一番印象に残ったもの
- ② 海外作品でイチオシの本
- ③ 一番好きな映画のワンシーン（洋画・邦画問わず）
- ④ 今ハマっていること・もの
- ⑤ これからやってみたいこと、または読みたい本



湯山晃子（国際交流学科 4年）

① 選書ツアー

初めて三省堂書店さんにご協力いただいて、また新しい選書ツアーを体験することができました。やはり様々な本との出会いは楽しいです。

② パウロ・コエーリョ『アルケミスト～夢を旅した少年～』

私にとっては冒険物語であり、啓発本でもあります。生きていれば周りが見えなくなったり、1つの考えに凝り固まってしまうこともあります。例えばそんな時にいつでも読み返したい本です。

③ 一番好きな映画やシーンは選べませんが、「幸せになるための27のドレス(2008)」のジェーンとケビンがバーで盛り上がり、適当に歌うシーンは、2人の間の壁が一気になくなったような清々しさがあります。

④ コーヒーを入れること、R2-D2

⑤ やってみたいこと: パン作り

読んでみたい本: ジョン J. レディ & リチャード・マニング

『GO WILD 野生の体を取り戻せ！』

科学が教えるトレイルラン、低炭水化物食、マインドフルネス』

今井舞葉（国際交流学科 3年）

① 文学散歩

最初に訪れた文学館で、展示されていた絵本を幼い頃に母が毎晩読み聞かせをしてくれたことを思い出しました。子どもの頃に読んだ絵本をこれからもずっと残してほしいと思いました。

② スーザン・コリンズ『ハンガー・ゲーム』

本だけではなく映画もとても楽しめる作品です。

③ 「テラビシアにかける橋」

ジェス(主人公)がレスリー(ヒロイン)を探しに森へ行くシーン

中学生の頃に家族と映画館で観ました。ジェスが現実を受け止められず、必死に探すシーンにとっても感動しました。初めて映画館で涙を流しました。

④ 家で温かい飲み物を飲むことにはまっています。白湯や甘酒、くず湯が好きです。最近のリフレッシュ方法は観劇に行くことです。

⑤ プライベートでは兵庫や九州に一人旅に挑戦してみたいです。また、読んでいない東野圭吾作品を読みたいです。

渡部ほのか（日本文学科 4年）

① 大学祭を少しでもお手伝いをしたときに、私たち4年がいなくても後輩たちがしっかり活動できていることを実感できて嬉しかったです。

② アレックス・シアラー『スノードーム』

可愛いタイトルと表紙ですが、読み終わると「怖い！」と思うはず。科学者の身に起きた、少し不思議で妙にリアルな物語です。

③ 「嫌われ松子の一生」で松子が亡くなるシーン。

松子があの世への階段を上りながら口ずさむ「まげてのばして」が印象的でした。

④ オリジナルの柄を刺繍してグッズっぽいものを作ることです。

⑤ 松岡圭祐さんの「探偵の探偵」シリーズをずっと読んでいたのですが、まだ最終巻を読めていないので早く読みたいです。



匿名（国際交流学科 2年）

① POPの書き方講座が印象に残っています。

② 「ダレン・シャン」シリーズがずっとイチオシです。

③ 「バケモノの子」で主人公の九太が敵と戦うシーン(ワンシーンというよりその戦いが全体的に好きです)

④ 今はまっていることはマンガを集めることです。今、赤塚不二夫先生の「おそ松くん」を集めています。

⑤ これから読みたい本は「バケモノの子」に出てきていた、ハーマン・メルヴィルの『白鯨』を読みたいです。

買ってそのままだからです。

中藤祥子（国際交流学科 3年）

① 第1回読書会

お勧めの本を紹介する中で、本の内容だけでなく、発表者の感性や個性を垣間見ることが出来、充実した時間を過ごせました。

② Достоевский『Преступление и наказание』

キリスト教を知るか否かで解釈が大きく異なる作品のため、まずは宗教観を知ってから読んでほしいです。

③ agnes trouble 作「Je m'appelle hmm…」から、スコットランド人運転手が裁判にかけられて…、というシーンです。作品の結末部分ですが、衝撃的で今でも忘れられません。

④ キャンドル集め

見ているだけでも幸せです。

⑤ 英語以外の言語習得です。正直英語も得意ではありませんが、それ以上に他の言語を習得することで読める本の量も増え、知識量も増やせるなと思ったので。

小根山桃子（日本語日本文学科 1年）

① 文化祭のブックカバー作り

② ジョナサン・ストラウド

「バーティミアス」シリーズ

③「ロード・オブ・ザ・リング」のフロドが指輪を捨てに行くことを決意するシーン

④ ホラーが嫌いなのにホラーゲームで遊ぶこと。

⑤ ファンタジーの長編小説を書いてみたいです。



吉満みなみ（演奏学科 1年）

① 学園祭でブックカバー作りを子供たちに教えたこと。

② ピエール・ルメートル『その女アレックス』

③ 洋画「ターミネーター」で主人公が登場するシーン。

④ 映像化された文学や漫画の原作を読むこと。

⑤ 「ハリーポッター」シリーズの小説を読破したいです。



まだまだ
続くよ！

磯田香織（国際交流学科 2年）

- ① POP 講座
POP って実はすごく奥深いことに気付いた貴重な講座でした。
- ② J・K・ローリング「ハリーポッター」シリーズ
構想が壮大で著者の思慮深さに感動しました。
- ③ 「プラダを着た悪魔」
主人公がナイジェルに「君は努力していない 愚痴を並べてるだけだ」と厳しい言葉をかけられるシーンにいつもはっとさせられます。
- ④ 温泉めぐり
- ⑤ 英語を学びたい！洋画を全部英語で見たい！

匿名（音楽芸術学科 1年）

- ① 選書ツアーです。自分で図書館に入りたい本を選べるのが嬉しいし、何より行ったことのない本屋に行けたのがとてもワクワクしました！
- ② エミリー・ロッド『フェアリー・レルム』
児童書ですが、今読んでみても世界観に入り込めるような面白さです。
- ③ 実写版「るろうに剣心」の剣心が恵を助けるため、悪徳商人の武田観柳の屋敷に乗り込む戦闘シーンです。
- ④ てぬぐい集め
折るとブックカバーとしても使えるのでとても便利です。
- ⑤ 日本国内を巡ってみたいです。だから国内旅行に関する本を読もうと思っています。



いつでも見学に来てください♥



選書ツアーで大きな書店にも行けるよ！

◆ プロフィール（朗読チーム） ◆

高橋里奈（コミュニケーション学科4年）

- ① 神奈川近代文学館の朗読会
- ② スタニスワフ・レム『ソラリスの陽のもとに』
- ③ 「アメリ」で主人公のアメリが空想（妄想？）をするシーン
- ④ 洋画などを字幕で見る
- ⑤ 服部まゆみ『この闇と光』



坂本紫緒里（日本文学科3年）

- ① 緑園東小学校での朗読会
はじめて参加し、たくさんの生徒さんと触れ合えたから。
- ② ヴィクトル・ユーゴー『レ・ミゼラブル』
中学生の時に読みました。舞台化、映画化も有名な不朽の名作です。
- ③ 「プラダを着た悪魔」
アン・ハサウェイとメリル・ストリープ主演の一番大好きな映画です。たくさんのブランド物やニューヨークの舞台も素敵ですが、一番好きなシーンは、映画終わりのシーンです。二人は言葉は交わしませんが、最後に見せるミランダ（メリル）の笑みがなんとも言えません。一人の女性として新しい道を進み始めるヒロインが、ニューヨークの街のたくさんの人の群れに紛れていくエンディングもとても好きです。一人一人の仕事やプライベートへの生き方を考えさせられる映画で、就活を控えている学生のうちにぜひ見て欲しいです。
- ④ たくさん映画を見ること
仕事や生き方に関するモチベーションの上がるものをたくさん見て、色々吸収したいです。
- ⑤ 国内外の旅行
色々な場所に行って、たくさんの人と触れあったり、見聞きしたりしてこれからの人生の糧にしていきたいと思います。

阿部果鈴（日本語日本文学科 2年）

- ① 神奈川近代文学館での朗読会
- ② ヨン・アイヴィデ・リンドクヴィスト『MORSE』
北欧の吸血鬼小説で、リメイク含め2回映画化されています。
- ③ 「リング」古井戸で貞子の遺体を抱きしめる場面
- ④ ルパン三世(アニメ・原作)
- ⑤ 「怪盗ルパン」シリーズ原作読破



鈴木珠友（音楽芸術学科 1年）

- ① サマースクールプログラムでの朗読会
わたしにとって、初めての朗読会であり、話を持ち出したのも私であったため、気合を入れて取り組みました。
- ② ジェリー・スピネッリ『スターガール』
変わった子ですが、自分らしさを大切にした輝く女の子の話であるため、感動しました。読んでいて飽きずおもしろいです。
- ③ 「塔の上のラプンツェル」のユージーンが生き返るシーン
お互いのことを思い合い、ラプンツェルは自分の自由を、ユージーンは命を犠牲にしようとしたが、結果ユージーンは生き返り、ラプンツェルも本当の自由を手にし、二人は確かな愛を得ました。
- ④ 歌詞から自分の生活とリンクすることを探し、誰かの応援メッセージにできるようにしています。ラジオで曲紹介のコーナーがあり、毎週取り組んでいます。
- ⑤ 『星の王子さま』の本を読む
「リトルプリンス 星の王子さまと私」の映画を見てとても感動したため、『星の王子さま』の原作をテストが終わったご褒美に読む予定です。すでに購入済みです。

◆ プロフィール (読プロキャラクター・リプロ) ◆



リプロ

イヌ科 男子
誕生日 2012年1月24日
身長 34.6cm (フェリスブックス2冊分)
体重 730g (フェリスブックス5冊分)
趣味 読書
好きな食べもの カステラ
家族構成 父、母、妹
今、ハマっていること ブックカバー作り



◆ おわりに ◆

図書館 森園佳子

今年度も多くの活動を通して、学生メンバー・朗読チームの学生と触れ合うことができ、担当職員として充実した1年間でした。例年、4月の新入生勧誘イベントは学生メンバーが中心となって行っていましたが、今年度は朗読チームの2名が加わり、発表の短い持ち時間の中で谷川俊太郎の詩を朗読してくれました。普段、学生メンバーと朗読チームは活動の場が別で顔を合わせる機会が少ないのですが、読プロに所属している者同士、このようなイベントを通してお互いに刺激し合うのは新鮮な喜びでした。

「洋画から原作へ～本の旅に出かけよう」という年間テーマは、海外作品に馴染みのない人でも本が原作となっている映画を観てからなら手にとりやすいのでは、というメンバーの意見で決まったものです。そこで展示でDVDとその原作を対にして並べたところ、本とDVDのジャケットが一緒に目に入ることで、多くの利用者に原作本にも興味を持ってもらえたようでした。また、テーマに沿った活動としては、『ライオンと魔女』について藤本図書館長に解説していただいた第2回読書会や、「クリスマス・キャロル」「オズの魔法使い」という名作を声だけで表現した神奈川近代文学館での朗読会が印象的でした。来年度は「平和を考える—平和をつくりだすために—」というテーマで活動します。今年とはまた味の違う活動になるという期待が今から膨らんでいます。

最近、フェリスに限らずどこの大学でも部活やサークルに入る大学生が減っていると聞きます。正直なところ、読プロも例に漏れず、メンバーを集めるのに苦心しています。しかし、読プロは一般的な部活やサークルとは違って、全学をあげて行っているフェリスのユニークな活動だと自負しています。その証拠に、図書館員の研修などで他大学の職員と接すると、「フェリスさんは読プロで有名ですね」としばしば声をかけられるのです。そんな団体に所属している学生には誇りを持ってほしいですし、「大学でこれから何かしよう」「何かしたい」と思っているフェリス生には、読書家かそうでないかにかかわらずぜひ読プロに加わってもらいたいです。

今年度も支えてくださった皆様、ありがとうございました。今後とも読書運動プロジェクトと活動に携わる学生へのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

「読書運動プロジェクト（読プロ）」とは？

「本が好き」「図書館が好き」な学生が集まって、教職員と一緒に活動している公認団体です。活動は週一回のお昼休み。図書館でランチミーティングを行っています。

毎年テーマを決めて読書会や本の展示を行うほか、大学祭では展示発表やブックカバー作りなどのワークショップを主催します。

朗読専門の先生から週一回のレッスンを受けられる「朗読チーム」は、大学祭や文学館など、学内外で発表の場があります。もちろん、両方の活動に参加してOK！

いずれも大学のプロジェクトなので部費等の活動費はかかりません♪



年間テーマに合わせたもの以外にも、さまざまな企画で年に数回の展示を行っています♪

大学祭のワークショップ、ボンドとアイロンで出来ちゃうブックカバーは大人気♡



同じ本についてそれぞれ感想を言ったり、お勧めの本を紹介したりする読書会では友達も増えますよ～

フェリス女学院大学附属図書館読書運動プロジェクト 2015 年度活動報告書

発行日 2016年3月31日

編集 フェリス女学院大学附属図書館読書運動プロジェクト

〒245-8651 神奈川県横浜市泉区緑園 4-5-3

TEL : 045-812-6999 E-mail : library@ferris.ac.jp